

SS部数学班 日本初の快挙を成し遂げた

結果で恩返しできた



▶ ISEFのボードの前で記念撮影をする3人(左から横濱君、小島君、坂井君)

5月13日から18日にかけて開催されたインテル国際学生科学技術フェア(以下ISEF)において、本校SS部数学班の横濱湧太君(3-1)、小島颯太君(3-1)、坂井龍征君(3-1)の3名が特別賞であるアメリカ数学会賞の1等賞を受賞した。このキマグレでは、日本発の快挙を成し遂げた3人のコメントを紹介する。

数学班班長の横濱君は今回の研究について「自分たちの研究は、既にある定理を拡張しその性質を調べるといっても、数学の広がりや美しさ、面白さを感じられる研究だった」と明かした。またISEFについて「世界中の人たちが同じ場所に集まり研究の発表をしているということが非常に印象的で、学問には国境がないということを感じることができた」と感想を述べた。また横濱君はISEFでの発表を「英語での発表は、話すことはもちろん質疑応答の際の聞き取りも難しく、非常に刺激的な経験になった」と振り返った。また「今まで練習してきたことを活かし、自信を持って笑顔で発表できたため、審査員に自分たちの研究の面白さを伝えられたと思う。しかし相手の質問を自力で聞き取ることができず通訳の方に頼ることが多かった

のは残念だった」と話した。加えて班員の坂井君は「発表時はとても緊張していたが、審査員が時折頷いてくれることもあったため、緊張が和らいだ」と微笑んだ。

小島君はISEFの空気感を「ISEFの会場は日本大会の会場ほど緊張した空気感ではなかった。他国からの参加者は、自分たちよりもリラックスして発表に臨んでいたと思う」と分析した。続けて小島君は「ISEFの審査員はこちらの目を見て発表を聞いてくださり、発表後には多くの感想をいただいた。なかには自分たちの研究を『美しい』と言ってくくださる方もいた」と笑顔を見せた。坂井君は「ISEFの会場はとても広く、そこに数百個の展示物があつた。また自分たちに話しかけてくださる参加者もいた。母国語が英語でなくても英語で普通に会話できる方が多かったのが驚いた」と打ち明けた。

横濱君はアメリカ数学会賞1等賞を受賞したことについて「この結果は僕たち3人だけのものでは決していない。顧問の先生や数学班の先輩方ももちろん、発表の練習を手伝ってくくださった先生方など多くの人々の手助けがあつてのも

のだ。受賞の際に名前を呼ばれたときは驚いたし、それとともに感謝の気持ちを決して忘れないようにしようとも思った」と明かした。小島君は「先輩方や顧問の先生、英語での発表に協力してくださつた先生など、これまで発表に向けて手助けをしてくださった方々に恩返しができるような結果を持って帰ることができた。それがうれしい」と顔をほころばせた。坂井君は「結果を聞くまではそこまで期待はしていなかった。しかし実際に受賞できたことを知ったときはとてもうれしかった。日本代表選出に引き続き、こんなうれしいことがまた起こるなんてラッキーだとも思つた。関係者の方々に感謝したい」と喜びをにじませた。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

前SS部数学班班長
細井星也さんからのコメント

この研究は私が高校3年生のころから取り組んでいたもので、私にも思い入れの深い内容であり、今回の受賞を自分のことのように喜んでます。数学班の後輩たちと顧問の高橋先生には「おめでとうございます」と伝えたいです。